

工事の前にこの工事説明書(本編)をよくお読みいただきますようお願いいたします。

「書込み設定」についての説明は別冊の工事説明書(書込編)をご覧ください。

目次

安全上のご注意	1~2	■ラックへの取り付け方	13
設置・使用上のご注意	3	ラック形非常用放送設備本体との接続のしかた	14~16
免責事項について	3	増設スイッチユニットとの接続のしかた	17~18
本機を長期間お使いの場合は	3	音声信号のレベル調整のしかた	18
使用上のお願い	4	設置時の点検	19~27
設置工事の前に	5	保守点検	28~29
設置のしかた		異常表示一覧	30
■卓上形使用の場合の金具の取り付け方および増設 スイッチユニットの連結のしかた	6~9	メモ	31
■壁取付形使用の場合の壁への取り付け方および増設 スイッチユニットの連結のしかた	10~12	サポートのご案内	32

安全上のご注意

必ずお守りください

- 設置工事の前に必ず、この「安全上のご注意」と工事、取扱方法に関する説明をよくお読みの上、正しく設置してください。
- お読みになったあとは、必ず保存してください。

安全に正しくお使いいただくために

この取扱説明書および製品への表示では、製品を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。内容をよく理解してから本文をお読みください。

絵表示の例



△記号は注意(危険・警告)を促す内容があることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



⊘記号は禁止の行為であることを告げるものです。図の中に具体的な注意内容が描かれています。



●記号は行為を強制したり指示する内容を告げるものです。左図の場合は一般的な行為を指示する表示です。



警告

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。

異常が起きたときは、ただちに使用をやめる

煙が出ている、においや音がある、水や異物が入った、落として破損したなど、火災・感電の原因となります。ただちに制御電源ユニットのブレーカーをOFFにし、販売店または工事店にご連絡ください。



工事は工事店に依頼する

工事には、技術と経験が必要です。火災・感電、けが、器物損壊の原因となります。工事店にご相談ください。



分解／改造はしない

火災・感電の原因となります。点検および配線時以外にこの機器の裏ぶた、カバーなどは絶対に外さないでください。内部の点検・整備・修理は保守契約店または工事店にご依頼ください。



間隔をおいて設置する

内部に熱がこもり火災の原因となります。また、他の機器との間は少し離して置いてください。ラックなどに入れるときは、すきまをあけてください。



異物を入れない

水や金属が内部に入ると、火災・感電の原因となります。ただちに分電盤の電源を切って、保守契約店または工事店にご連絡ください。



この機器の上に花瓶など水の入ったものを置かない

こぼれたり中に水が入った場合、火災・感電の原因となります。



定期的に点検をする

非常時に作動しないと、火災や災害を拡大する原因となります。点検は保守契約店または工事店にご依頼ください。



注意

この表示を無視して、誤った取扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

湿気やほこりの多い場所、油煙や湯気が当たるような場所に置かない

火災・感電の原因となることがあります。



不安定な場所に置かない

落ちたり、倒れたりしてけがの原因となることがあります。



重量に耐える場所に取り付け、設置をする

取付場所の強度が不十分なとき、転倒等により、けがや破損の原因となることがあります。



表示された電源電圧以外の電圧で使用しない

火災・感電の原因となります。



コード類を傷つけない

コード類の上に重いものをのせたり、無理に曲げたり、ねじったり、引張ったりすると、火災・感電の原因となります。コード類が傷んだら(芯線の露出、断線)販売店などに交換をご依頼ください。



機器を接続する場合は、各々の機器の取扱説明書をよく読みください。機器の接続は保守契約店または工事店にご依頼ください。



設置・使用上のご注意

- EIAラックに組み込む場合は、本機と電力アンプの間には必ず、1U以上の間隔を開けてください。
別売の換気パネル RIB-1F(別売品)を取り付けることをおすすめします。
- 次のような場所では使用しないでください。誤動作、故障、漏電の原因になります。
・使用湿度範囲をこえる85%以上の場所／屋外などの雨や日光に直接当たる場所／結露が生じる場所／激しい振動や衝撃が発生する場所
- 本機を雑音発生の原因になる機器※の近くには設置しないでください。
※高周波機器(乾燥機、医療機器など)、電気溶接機、ブラッシングモーター、自動車の通る道、携帯電話機、デジタル機器(コンピューター、電子楽器など)、空気清浄器。

遮断装置について

- 本機には電源スイッチがありませんので、本体の制御電源ユニットのブレーカーが遮断装置になります。
異常が起きた時は、ただちに使用をやめ、本体の制御電源ユニットのブレーカーをOFFにし、販売店または工事店にご連絡ください。

免責事項について

当社は下記の事項に関して一切の責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。

- ①お客さまの故意、過失、誤用、その他異常な条件下での使用による損害または本製品の破損など
- ②本製品に直接または間接に関連して生じた、偶発的、特殊的、または結果的損害・被害
- ③本製品のお客さまご自身による修理、分解または改造が行なわれた場合、それに起因するかどうかを問わず、発生した一切の故障または不具合により生じた損害
- ④本製品の故障・不具合を含む何らかの理由または原因により、使用ができないことなどによる不便・損害・被害
- ⑤第三者の機器と組み合わせたシステムによる不具合、あるいはその結果被る不便・損害・被害

本機を長期間お使いの場合は

本機を安全に使用していただくために、販売店または工事業者による定期的な点検をおすすめします。

外観上は異常がなくても、使用条件によっては部品が著しく劣化している可能性があり故障したり、事故の原因となることがあります。下記①～④の様な状態ではないか日常的に確認してください。もしその様な状態を発見されましたら直ちに電源を切り(使用中止)、販売店または工事業者に点検や撤去をご依頼ください。

特に10年を超えて使用されている場合は、定期点検の回数を増やしていただくとともに買い換えの検討をお願いします。

- ①煙が出たり、こげ臭いにおいや異常な音がしている。
- ②電源コード・電源プラグが異常に熱い。または亀裂や傷がある。
- ③本機に触れるとビリビリと電気を感じる。
- ④電源を入れても音が出てこない、その他の異常・故障がある。

使用上のお願い

● 日常点検をしてください。

万一の際、正常に機器が動作するよう日常点検をおこなってください。特に非常電源の点検は必ずおこなってください。

● 日常点検時に異常を発見した場合は、ただちに販売店または保守契約店にご連絡ください。

修理・復旧を実費でおこないます。詳しくは販売店にご相談ください。

● 日常点検は機器の動作の一部だけを点検するもので、全てではありません。

必ず定期点検をおこなってください。

● 保守契約のお願い

消防法により定期点検、消防署への報告、および点検結果の維持、台帳への記録が義務付けられています。建物の規模、用途によっては**消防設備士**、または自治大臣が認めた**有資格者**が点検しなければなりません。非常業務兼用放送設備が正しく動作するために、保守契約の締結をおすすめします。保守契約の締結については、販売店(工事店)または販売会社にお問い合わせください。

保守契約を締結していただくことは、ご使用者にかわって「消防設備士(第4類甲、乙、第7類乙)」・「第2種消防設備点検資格者」が定期点検をお引き受けするわけですから、**保守期間内であっても定期点検業務については有償となります。**

● 分電盤のスイッチは絶対に切らないでください(常に主電源表示灯が点灯していること)。

非常放送設備には、停電時でも放送できるように非常電源(蓄電池)が組み込まれており、常に蓄電池を充電していますので分電盤などのスイッチ絶対に切らないようにしてください。

● 設置について

本機の上や周囲に物を置かないでください。

- ・ 本体操作部および遠隔操作器(非常業務リモコン)の操作スイッチは、床面からの高さが0.8m(いすに座って操作するものにあっては0.6m)以上1.5m以下の箇所に設置してください。
- ・ 左右0.3m以内、操作面1m以内には物を置かないでください。操作の妨げになる原因となります。

操作説明書は本機の近くに置いてください。

- ・ 設定した起動方式のページを透明ケースに入れてください。
- ・ 非常時に確実に操作できるように、本機の近くに置いてください。

● お手入れのしかた

ケースが汚れたらうすめた台所用洗剤を布にしみ込ませ、よくしぼり、軽くふいてください。そのあと、からぶきしてください。

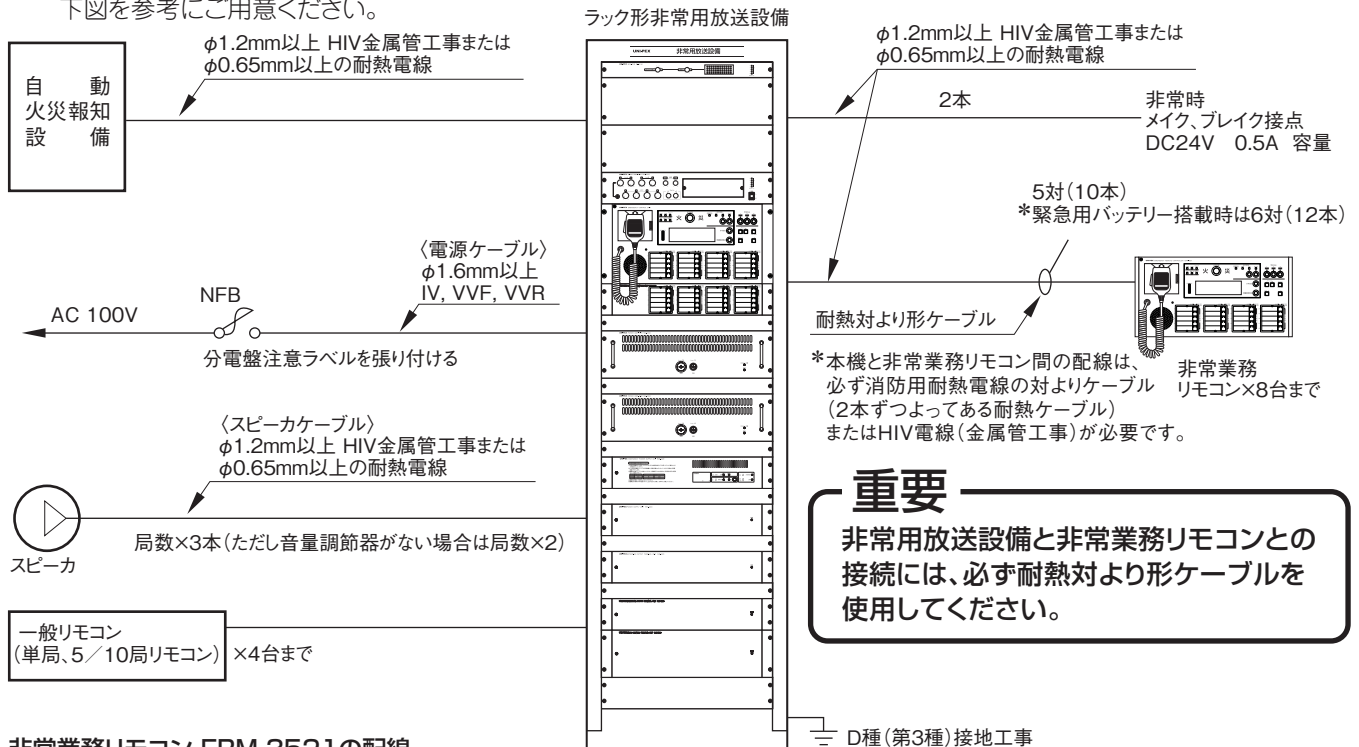
お願い

- ・ 操作部に触れますと、非常放送などが放送される場合があります。お手入れをする場合は操作部に触れないようにするか、適切な状況のもとでのみお願い致します。
- ・ ベンジンやシンナーなど揮発性のもの、研磨剤は使用しないでください。
- ・ 化学ぞうきんを使用するときは、その注意事項をよくお読みください。
- ・ 内部の清掃や点検は、販売店にご相談ください。

設置工事の前に

■ 接続線について

下図を参考にご用意ください。



非常業務リモコン ERM-3521の配線

※Pはペア数を表しています。()内は全ペア数の内の電源線を示しています。

※緊急用バッテリーを使用して、停電時に緊急放送を行う場合は、下記の表に1Pを追加してください。

局数	電源線の接続可能距離と線径、ペア数											
	100m以下			200m以下				300m以下			500m以下	
	φ0.9mm	φ1.2mm	φ1.6mm	φ0.9mm	φ1.2mm	φ1.6mm	φ2.0mm	φ1.2mm	φ1.6mm	φ2.0mm	φ1.6mm	φ2.0mm
20	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)
40	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	5P(1P)
60	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	5P(1P)
80	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	6P(2P)	5P(1P)	6P(2P)	6P(2P)
100	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)
120	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	8P(4P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)
140	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	8P(4P)	6P(2P)	6P(2P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)	6P(2P)	7P(3P)	6P(2P)
160	6P(2P)	6P(2P)	5P(1P)	8P(4P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	8P(4P)	6P(2P)	6P(2P)	8P(4P)	6P(2P)
180	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	9P(5P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	8P(4P)	7P(3P)	6P(2P)	8P(4P)	7P(3P)
200	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	9P(5P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	8P(4P)	7P(3P)	6P(2P)	8P(4P)	7P(3P)

ERM-3521の配線の導体抵抗の例

線径(mm)	0.9	1.2	1.6	2.0
導体抵抗(例) (20°C)(Ω/km)	29.2	16.5	9.29	5.94

※対応表を超える接続をおこなう時は、お問い合わせください。

一般リモコン

	配線距離	200m以下	500m以下
単局 リモコン	シールド線(1本)	φ0.26mm以上	φ0.35mm以上
	制御線(5本)	φ0.8mm以上	φ1.2mm以上
5/10局 リモコン	シールド線	φ0.26mm以上	φ0.35mm以上
	COM線(1本のみ) 制御線	φ1.8mm以上 φ0.65mm以上	φ2.6mm以上 φ1.0mm以上

■ 工事に必要な工具

【コンクリート壁のとき】

- ・電動ドリル
- ・アンカーボルト

【板壁などのとき】

- ・木ねじ
- ・板壁用アンカーボルト

・ハンマー

- ・スケール
- ・プラスドライバー(4mm用)
- ・マイナスドライバー

・ラジオペンチ

- ・電工ニッパ
- ・アンカー取付工具
- ・圧着工具

■ 工事の順序

次の順序で工事をおこなってください。

設置



接続



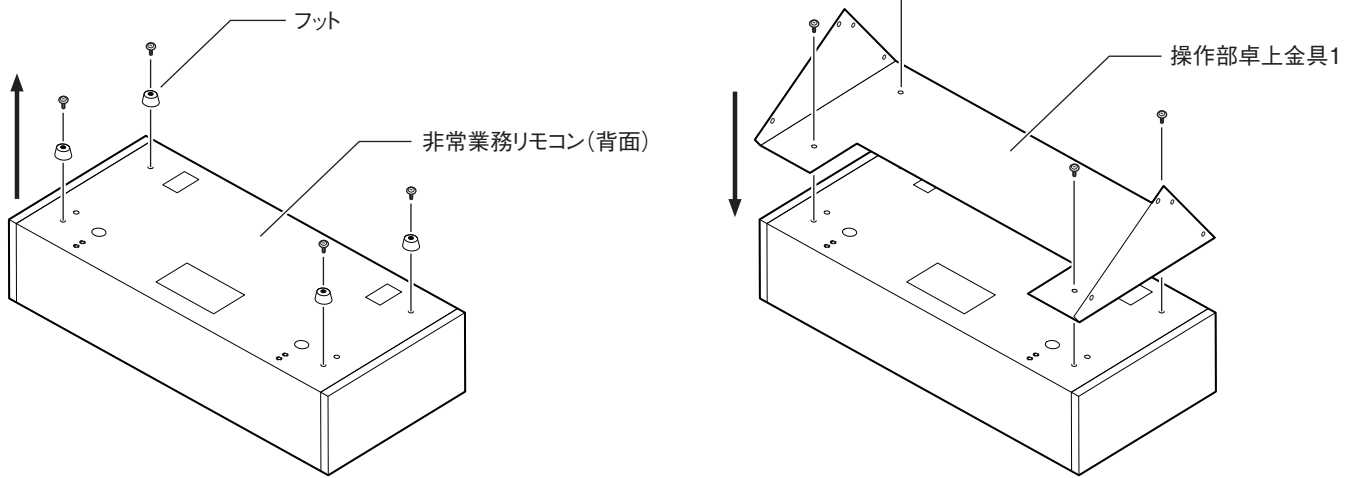
書き込み



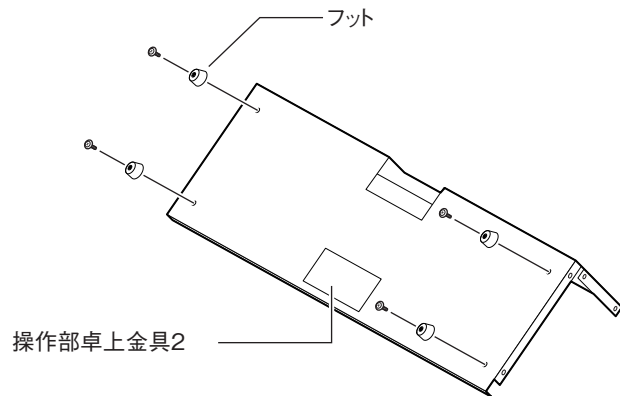
動作確認

手順1

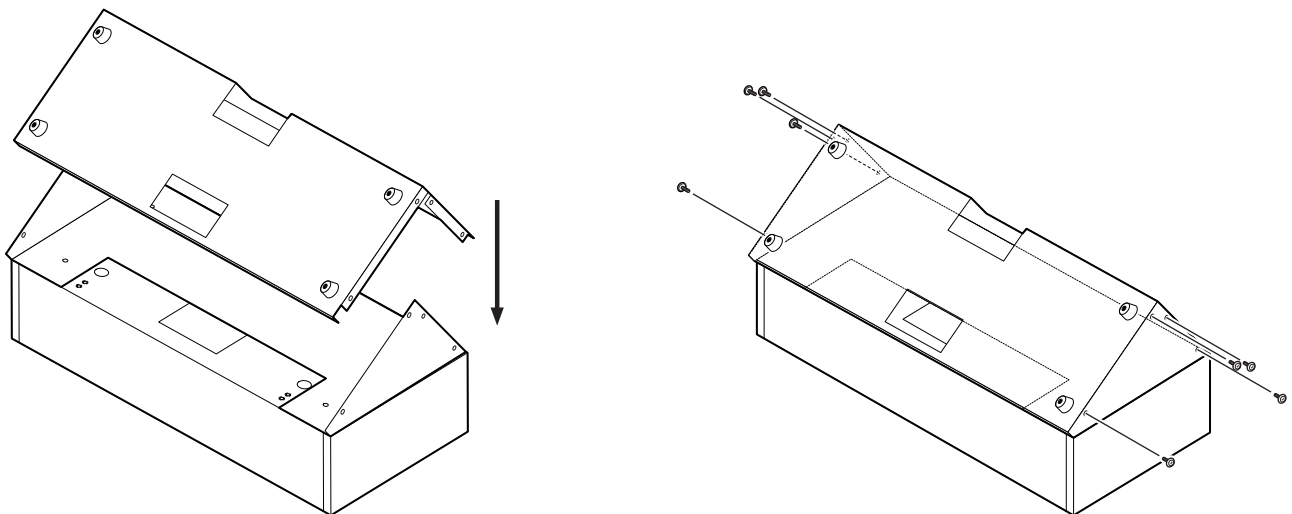
①非常業務リモコンのフットを取り外して、操作部卓上金具1を取り付けます。



②①で取り外したフットを操作部卓上金具2に取り付けます。



③操作部卓上金具2を、非常業務リモコン背面の操作部卓上金具1に取り付けます。



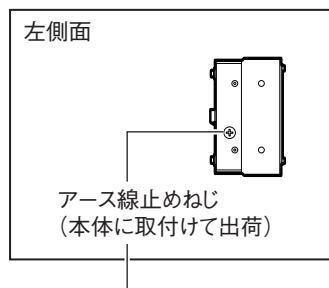
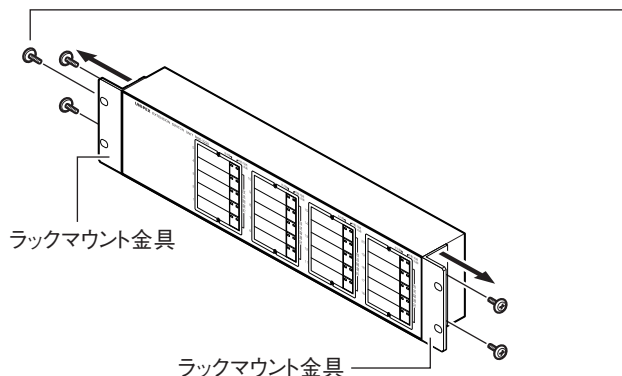
設置のしかた

手順2

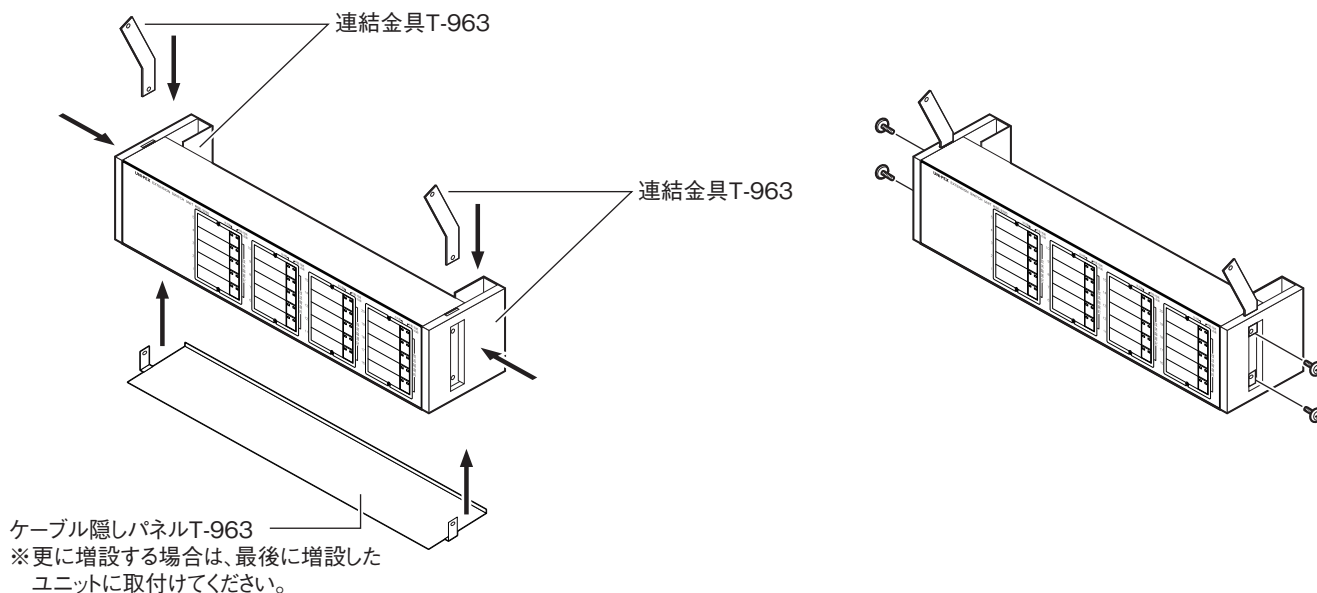
・ 増設スイッチユニットを連結します。

④ 増設スイッチユニットのラックマウント金具を取り外します。

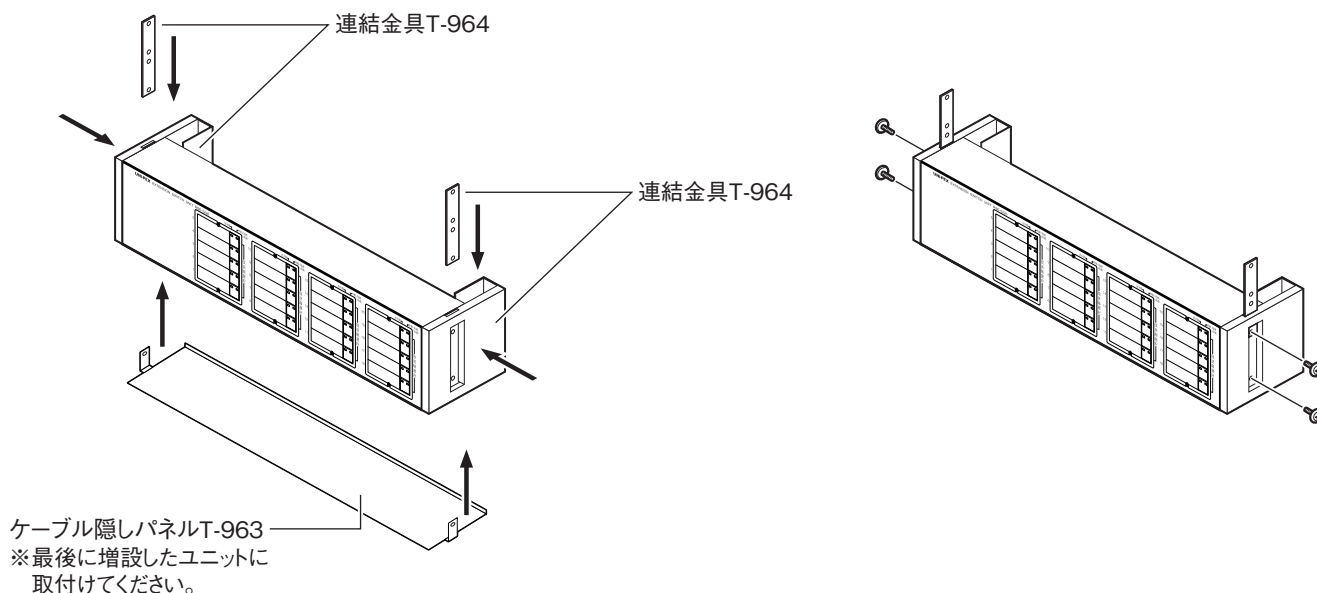
※アース線止めねじも外す。



⑤ 連結金具T-963を取り付けます。

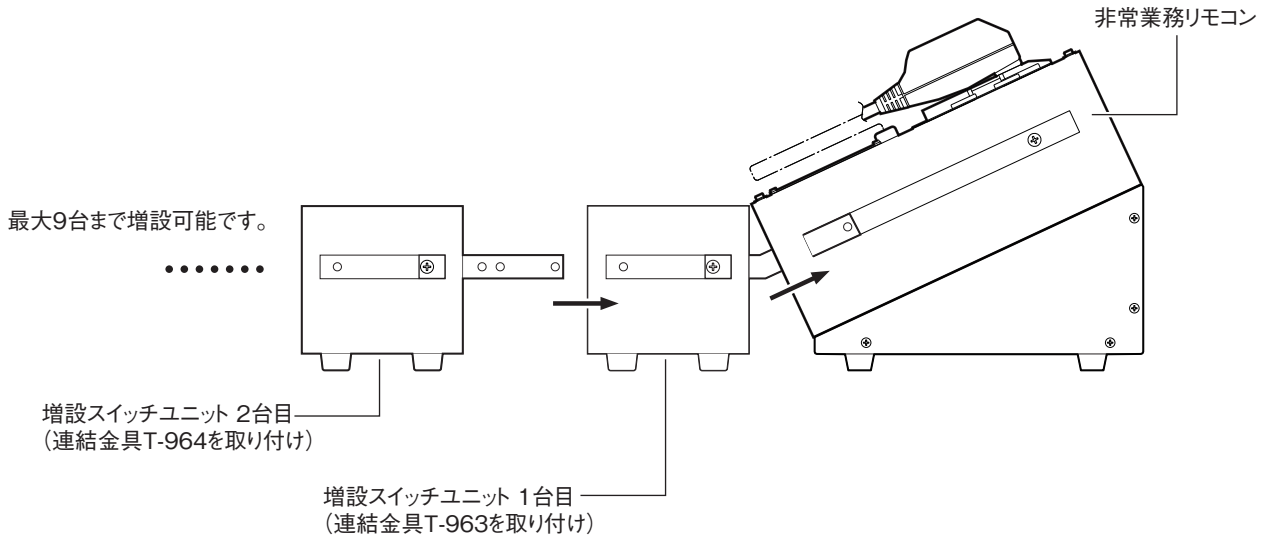


⑥ 更に増設スイッチユニットを増設する場合、連結金具T-964を取り付けます。最大9台まで増設可能です。

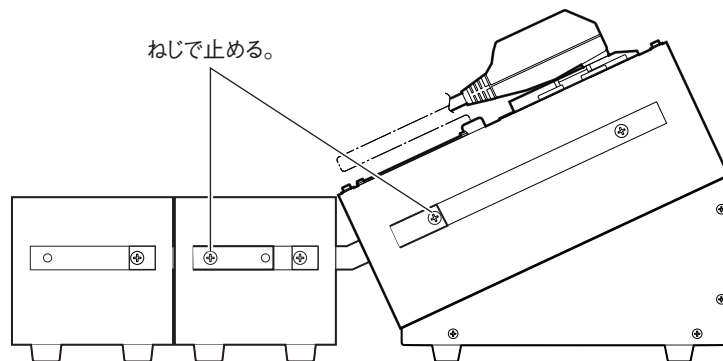


手順3

- ⑦ 増設スイッチユニット(1台目)を⑤で取り付けした金具を使って、非常業務リモコンに取り付けます。
増設スイッチユニット(2台目以降)を取り付ける場合、⑥で取り付けした金具を使って、増設スイッチユニットに取り付けます。



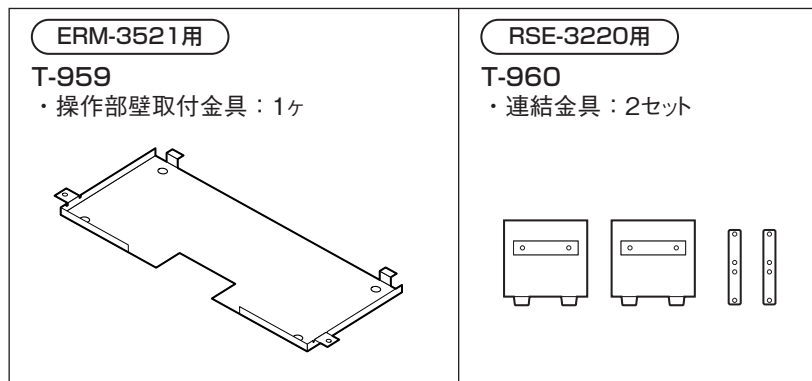
- ⑧ ねじ止めしてください。



設置のしかた

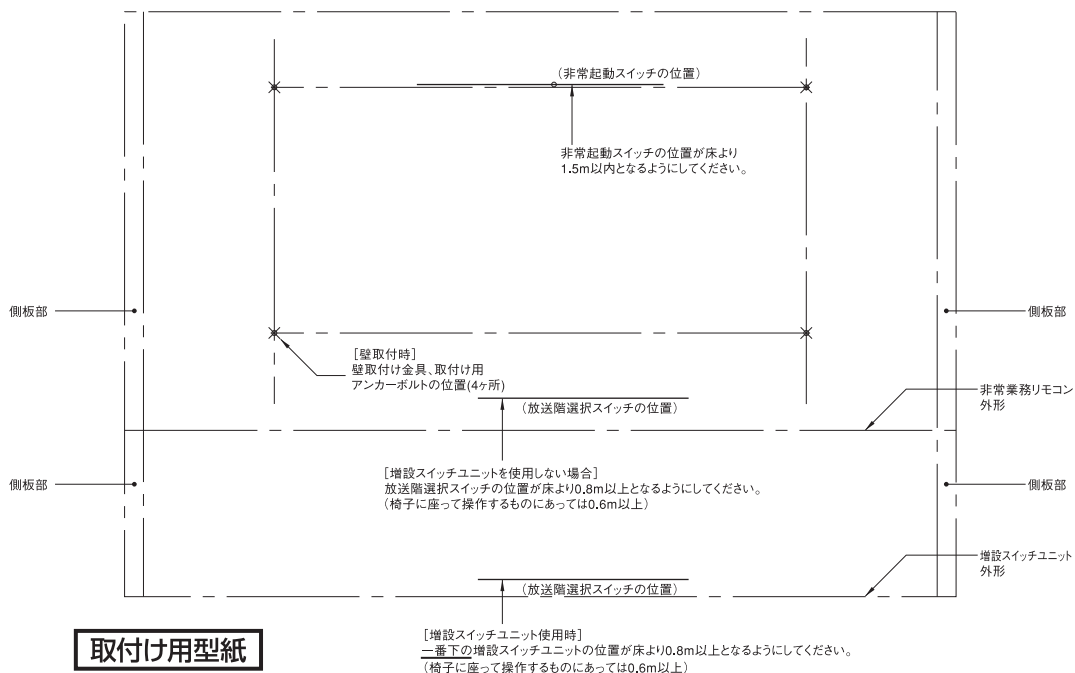
■壁取付形使用の場合の壁への取り付け方および増設スイッチユニットの連結のしかた

- 壁に取り付けてご使用の場合は、ERM-3521用壁面取付金具 T-959(別売)およびRSE-3220用連結金具 T-960(別売)が必要です。



手順1

- ①取付け用型紙(付属)を以下の条件に従って、壁に貼りつけてください。
 - ・非常起動スイッチの位置が床面から1.5m以内
 - ・最下部の階別選択スイッチの位置が床面から0.8m以上(椅子に座って操作するものにあっては0.6m以上)
 なお、操作の妨げにならないよう左右0.3m、前面1m以内には障害物等がないような場所を選んでください。



取付け用型紙

- ②取付け用型紙の「アンカーボルトの位置」4ヶ所にアンカーボルトを打ち込んでください。

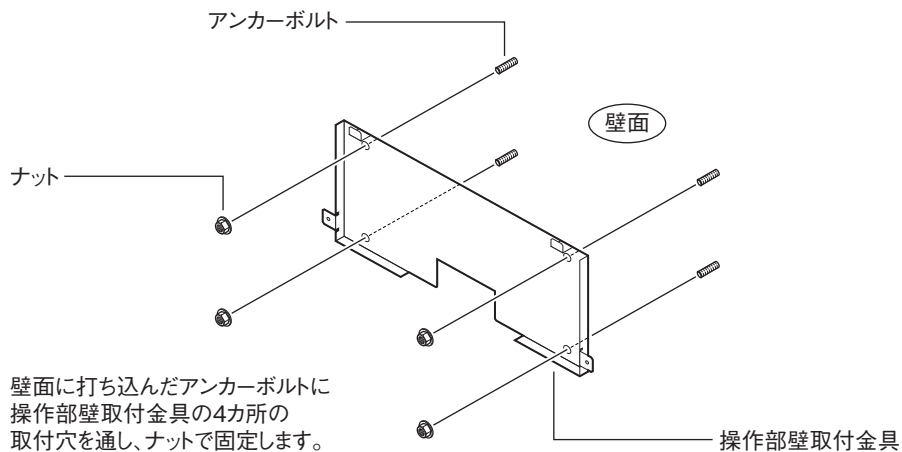
【コンクリート壁のとき】

- ※壁面は、耐荷重10kg以上のコンクリート壁を選びます。
- ・電動ドリルで穴をあけアンカーボルトを打ち込みます。

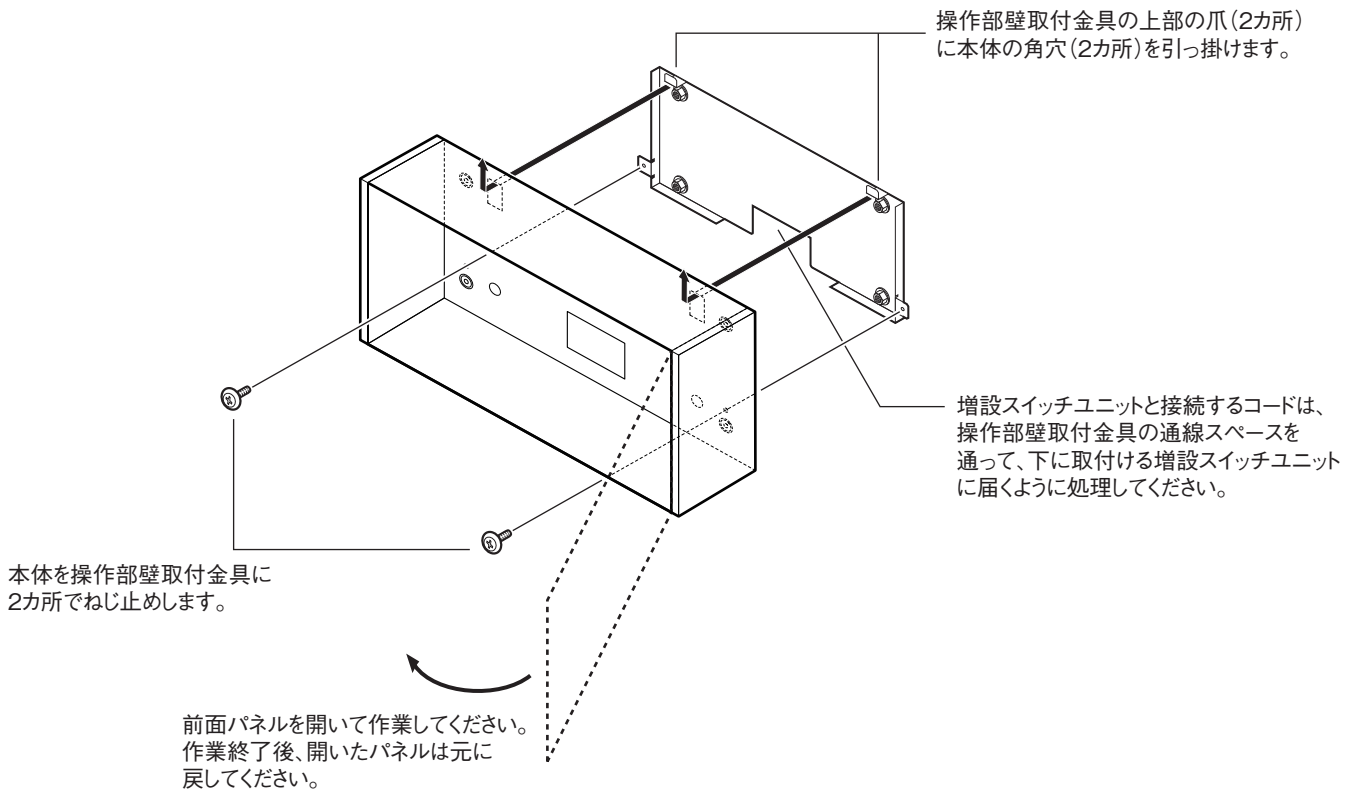
【板壁などのとき】

- ※木造やボード製の間仕切り程度に使用されている壁などへの取付は避け、しっかりした柱や板厚20mm以上の板壁を使用します。
- ・電動ドリルで穴をあけ板壁用アンカーボルトを打ち込みます。また、板壁用アンカーボルトが使用できない所は、木ねじを使用します。

③操作部壁取付金具を壁に取り付けます。



④操作部壁取付金具に非常業務リモコンを固定します。



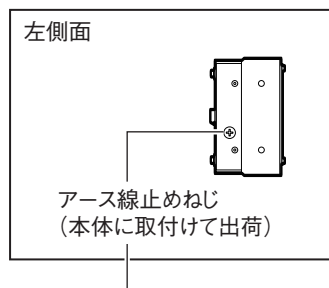
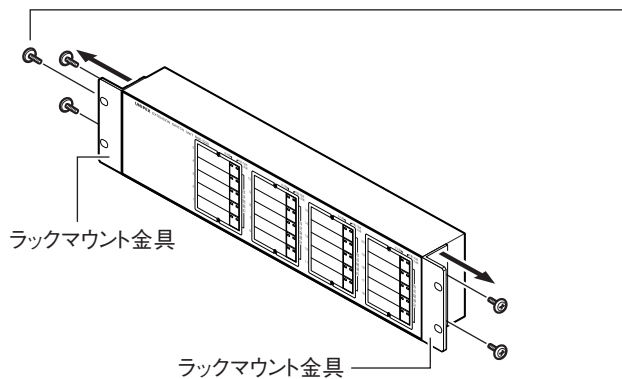
設置のしかた

手順2

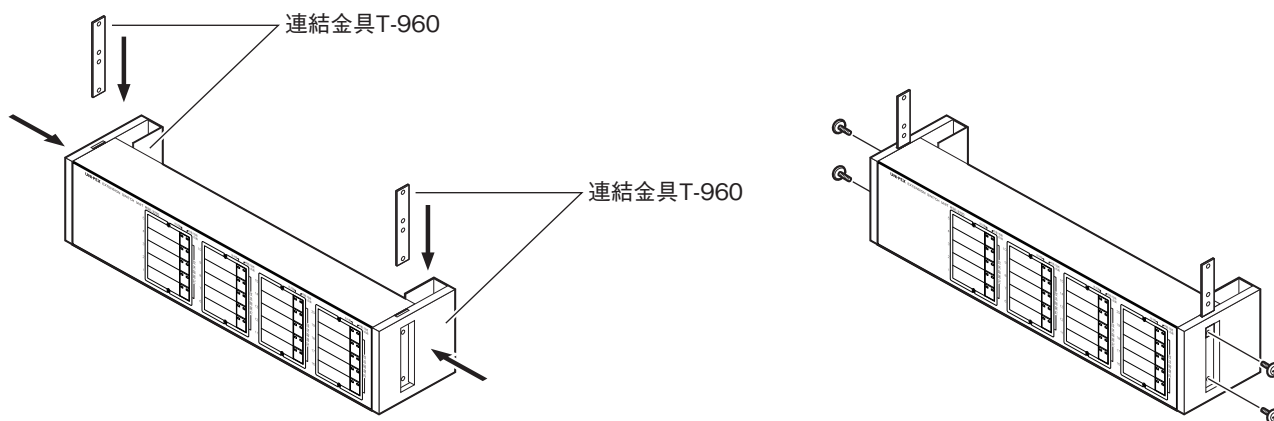
・ 増設スイッチユニットを連結します。

⑤ 増設スイッチユニットのラックマウント金具を取り外します。

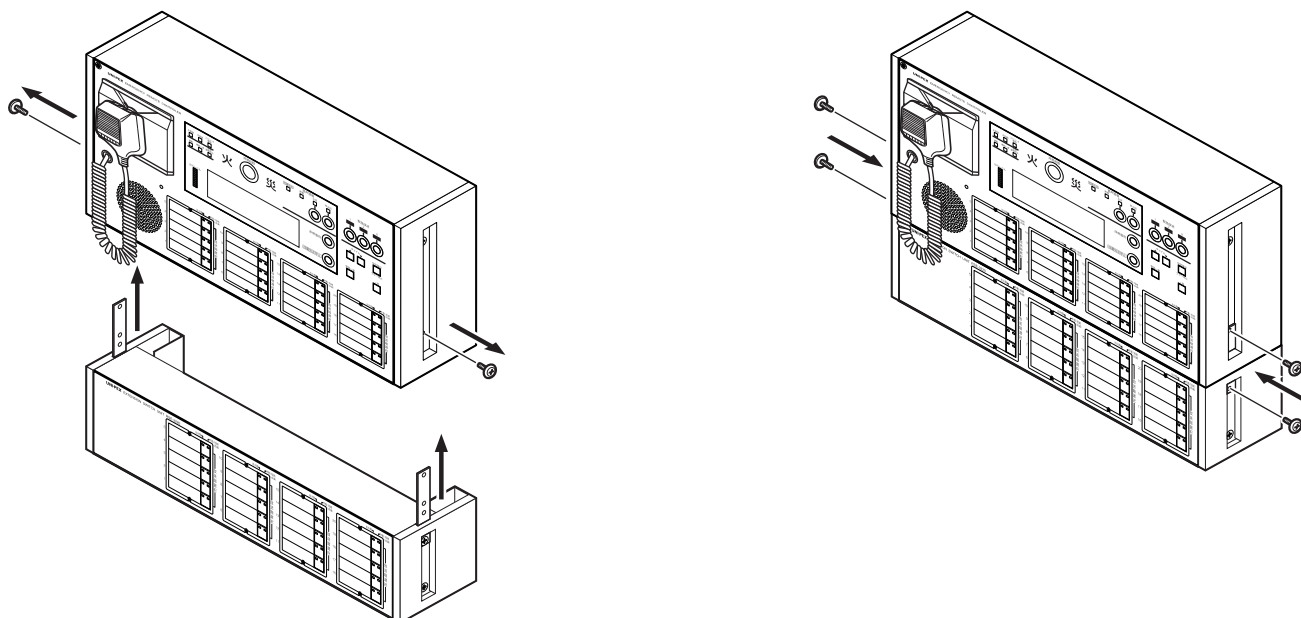
※アース線止めねじも外す。



⑥ 連結金具T-960を取り付けます。

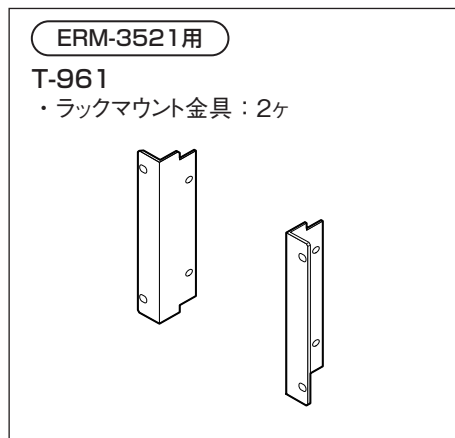


⑦ 増設スイッチユニットを⑥で取り付けた金具を使って、非常業務リモコンに取り付けます。

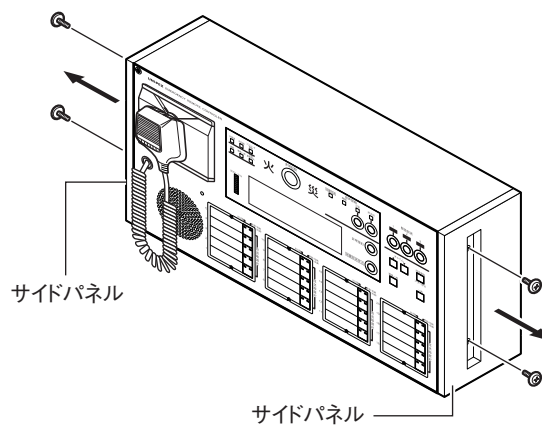


■ラックへの取付け方

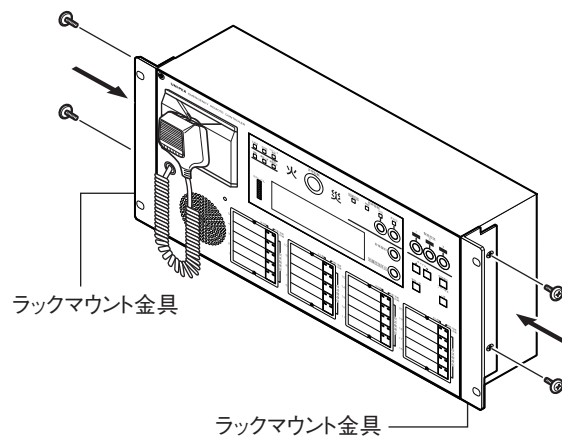
- ラックに取り付けてご使用の場合はラックマウント金具T-961(別売)が必要です。



- ①非常業務リモコンのサイドパネルを外します。



- ②ラックマウント金具を取り付けます。



ラック形非常用放送設備本体との接続のしかた

警告

工事は、必ず分電盤のスイッチを「切」にしてからおこなってください。感電の原因になります。

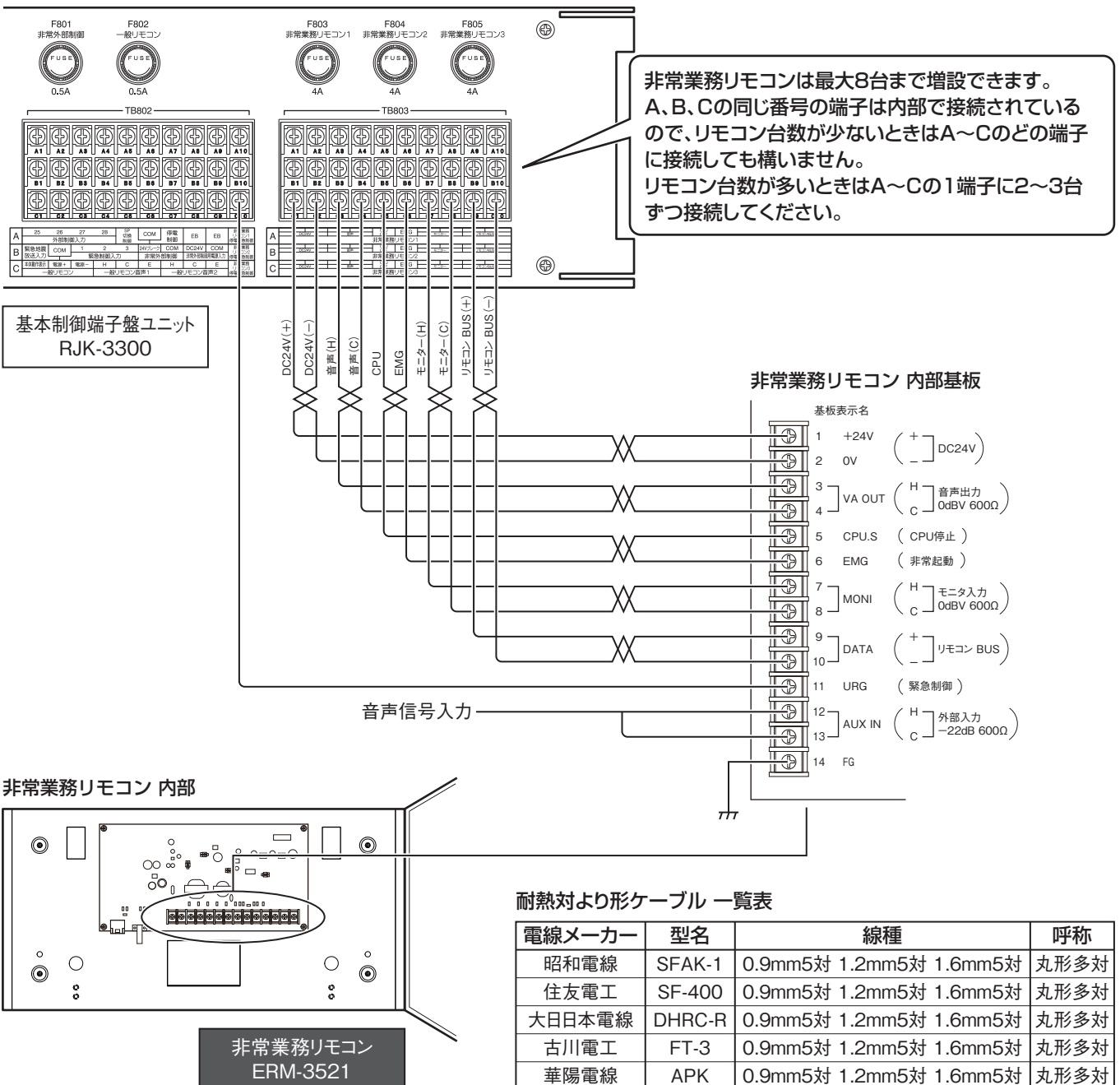
注意

配線作業は、必ず制御電源ユニット(RPC)および非常電源ユニット(RDE)の電源供給を切った状態(ブレーカーの遮断および蓄電池の取り外し)で行ってください。通電状態での結線や誤配線は、機器破損の原因となります。

■ 入出力制御端子

配線は、必ず耐熱対より形ケーブルを使用してください。

(平行線ではノイズの影響によって、信号「データ」が乱れることがありますので使用しないでください。)



非常業務リモコン ERM-3521の配線

※Pはペア数を表しています。()内は全ペア数の内の電源線を示しています。

※緊急用バッテリーを使用して、停電時に緊急放送を行う場合は、下記の表に1Pを追加してください。

局数	電源線の接続可能距離と線径、ペア数											
	100m以下			200m以下				300m以下			500m以下	
	φ0.9mm	φ1.2mm	φ1.6mm	φ0.9mm	φ1.2mm	φ1.6mm	φ2.0mm	φ1.2mm	φ1.6mm	φ2.0mm	φ1.6mm	φ2.0mm
20	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)
40	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	5P(1P)
60	5P(1P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	5P(1P)
80	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	6P(2P)	6P(2P)	5P(1P)	6P(2P)	6P(2P)
100	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)
120	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	8P(4P)	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)
140	6P(2P)	5P(1P)	5P(1P)	8P(4P)	6P(2P)	6P(2P)	5P(1P)	7P(3P)	6P(2P)	6P(2P)	7P(3P)	6P(2P)
160	6P(2P)	6P(2P)	5P(1P)	8P(4P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	8P(4P)	6P(2P)	6P(2P)	8P(4P)	6P(2P)
180	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	9P(5P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	8P(4P)	7P(3P)	6P(2P)	8P(4P)	7P(3P)
200	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	9P(5P)	7P(3P)	6P(2P)	5P(1P)	8P(4P)	7P(3P)	6P(2P)	8P(4P)	7P(3P)

ERM-3521の配線の導体抵抗の例

線径(mm)	0.9	1.2	1.6	2.0
導体抵抗(例) (20℃)(Ω/km)	29.2	16.5	9.29	5.94

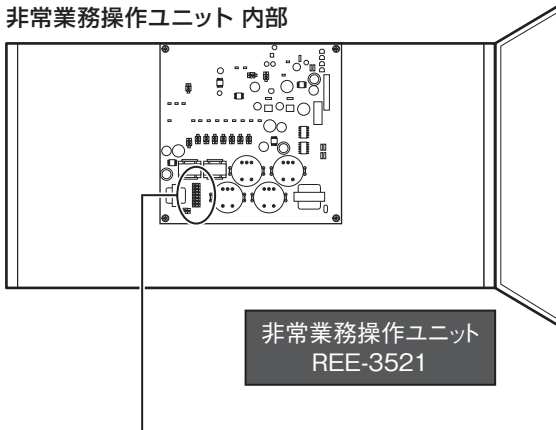
※対応表を超える接続をおこなう時は、お問い合わせください。

初期設定

使用する前に、ラック形非常用放送設備本体側で、初期設定が必要です。

非常業務操作ユニット REE-3521内部のディップスイッチで、使用するリモコンの台数を設定してください。

非常業務操作ユニット 内部



出荷時の設定
SW1のみOFF、それ以外のSWはONになっています
(使用リモコン台数が0台または1台の設定)。

ON ← SW1

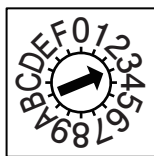
使用リモコン台数	0~1台	2台	3台	4台	5台	6台	7台	8台
ディップスイッチの設定								

ラック形非常用放送設備本体との接続のしかた

■ 非常業務リモコンを2～8台接続するとき

必ずアドレス設定が必要です。アドレス設定用のスイッチは、前面パネルの裏側にあります。(出荷時は1に設定)

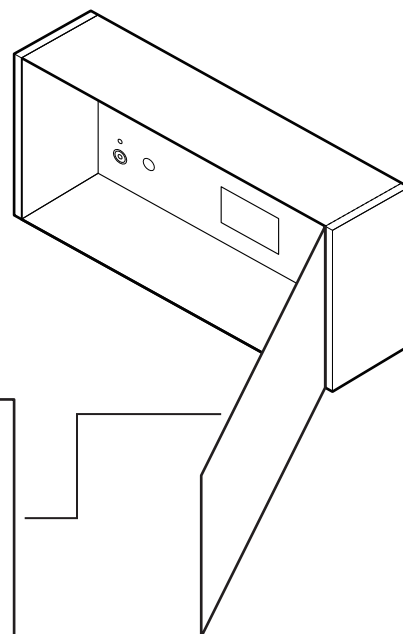
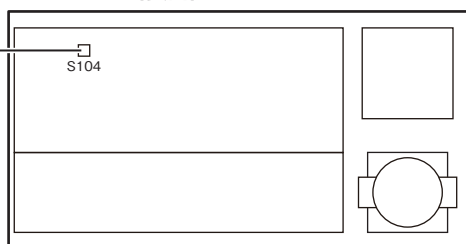
ロータリースイッチ



(アドレス 3 設定時)

増設順	アドレス
1台目	1
2台目	2
3台目	3
4台目	4
5台目	5
6台目	6
7台目	7
8台目	8

前面パネル (裏側)



■ 停電緊急制御端子

非常業務リモコンを接続するラック形非常用放送設備に、非常電源ユニット(緊急用)を設置し、非常業務リモコンの緊急制御端子と基本制御端子盤ユニットの非常業務リモコン停電緊急制御端子を接続することで、停電時に緊急放送をおこなうことができます。

※非常電源ユニットを緊急用で使用する設定については、非常電源ユニットの取扱説明書を参照してください。

■ 外部入力端子

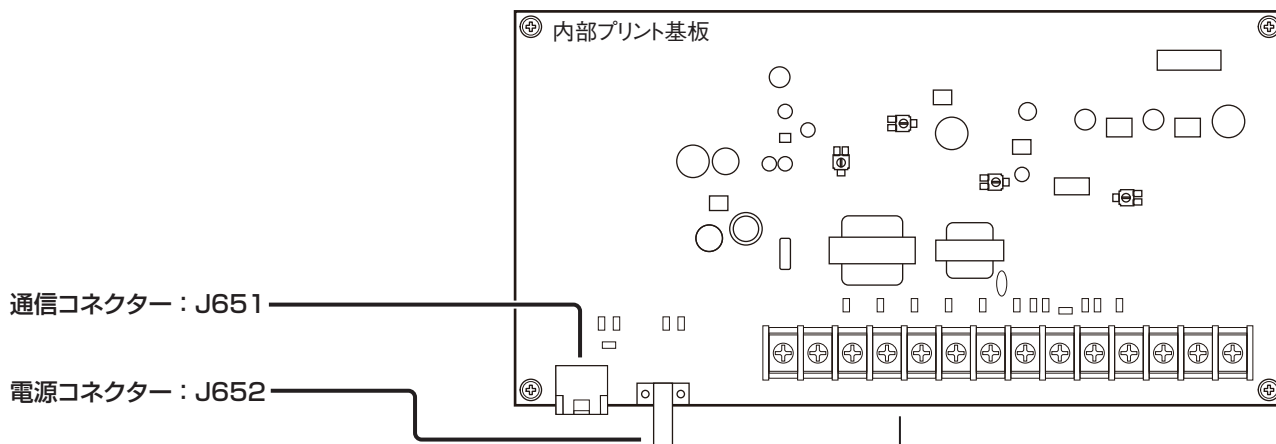
外部入力端子に音声信号を入力し放送階を選択すると、音声信号を出力することができます。

ご注意

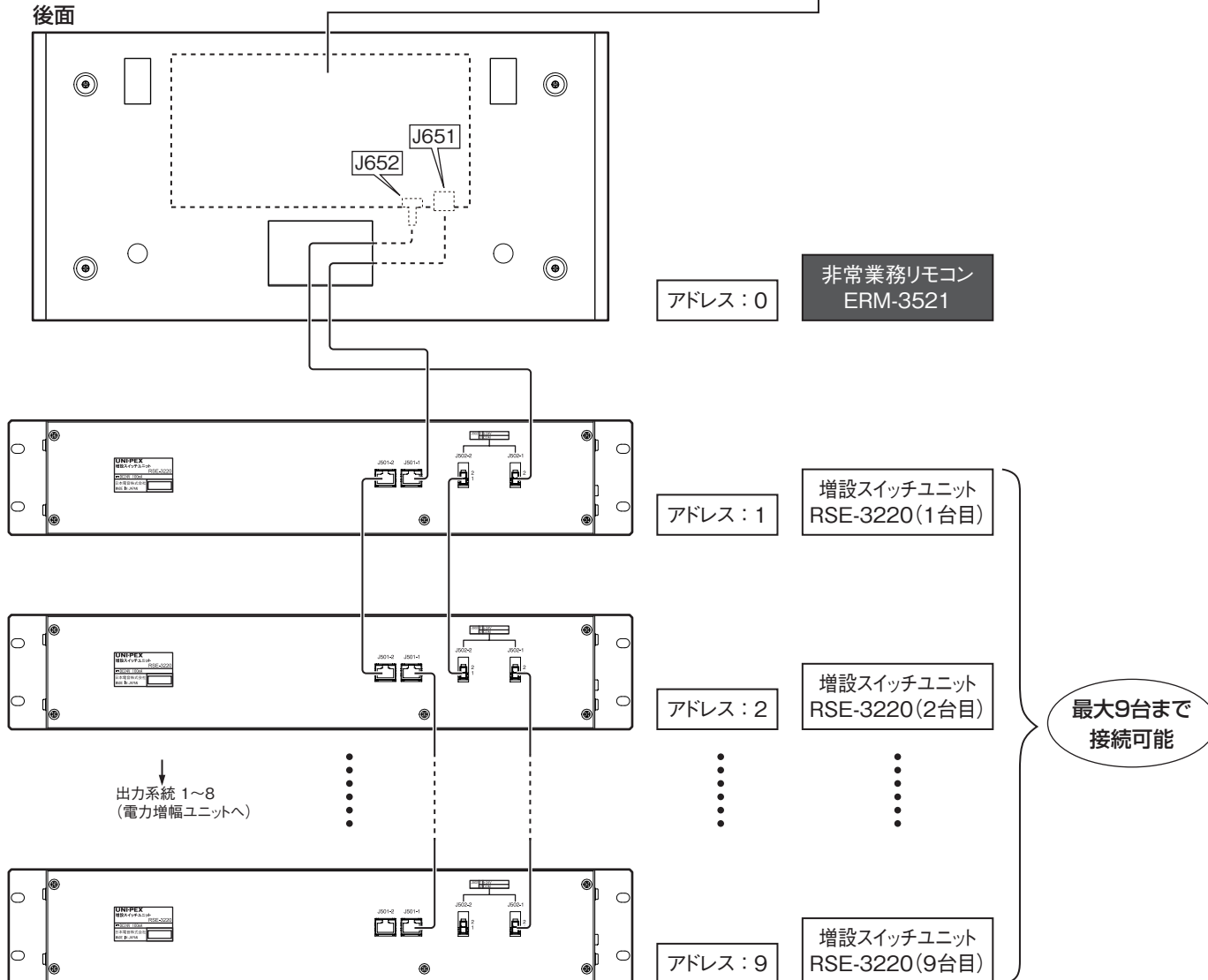
- ・非常業務リモコンが2台以上接続されている状態で、各リモコンの外部入力端子に音声信号を入力すると、音声信号はミキシングで出力します。

増設スイッチユニットとの接続のしかた

- 増設スイッチユニットRSE-3220は裏面に通信コネクタおよび電源コネクタがあります。
- 非常業務リモコンERM-3521に増設スイッチユニットは最大9台まで接続でき、最大200回線とすることができます。
- 増設スイッチユニットの接続方法は、下図のとおりです。



■ 非常業務リモコンと増設スイッチユニットの接続例



増設スイッチユニットとの接続のしかた

○アドレス設定のしかた

- 増設スイッチユニットは、アドレス設定が必要です。

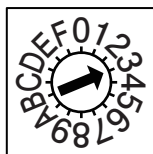
内部にあるロータリースwitchを回し下記の表を参考に値を調整してください。

(例)増設台数が2台の場合は1台目を1、2台目を2の設定値にします。

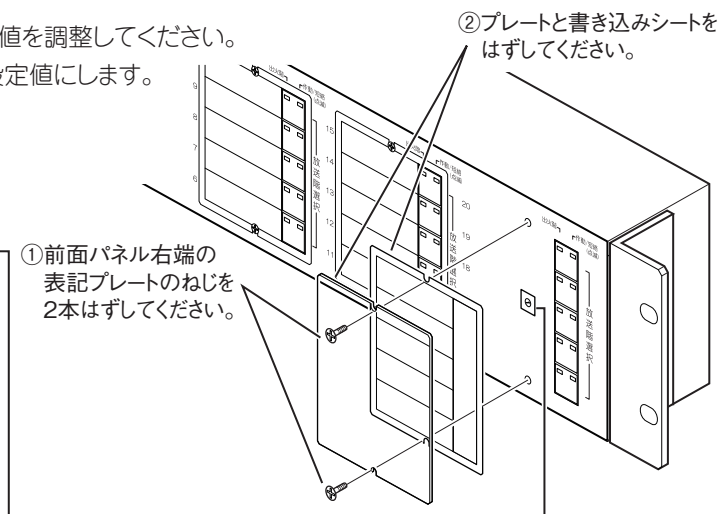
※増設は計9台まで可能です。

増設順	放送階番号	アドレス
1台目	21~40	1
2台目	41~60	2
3台目	61~80	3
4台目	81~100	4
5台目	101~120	5
6台目	121~140	6
7台目	141~160	7
8台目	161~180	8
9台目	181~200	9

ロータリースwitch



(アドレス 3 設定時)



○書き込みシートの使いかた

- 「アドレス設定のしかた」の図の手順で表記プレートをはずし、書き込みシートに書き込んでください。

音声信号のレベル調整のしかた

非常業務兼用マイク、内部音源、外部入力 of 音量は、定格が出力されるように調整されています。

内部プリント基板でこれらの音量を調整する場合は、調整前と調整後に、下記の事項の点検をおこなってください。

- ①スピーカーが過負荷になっていませんか…

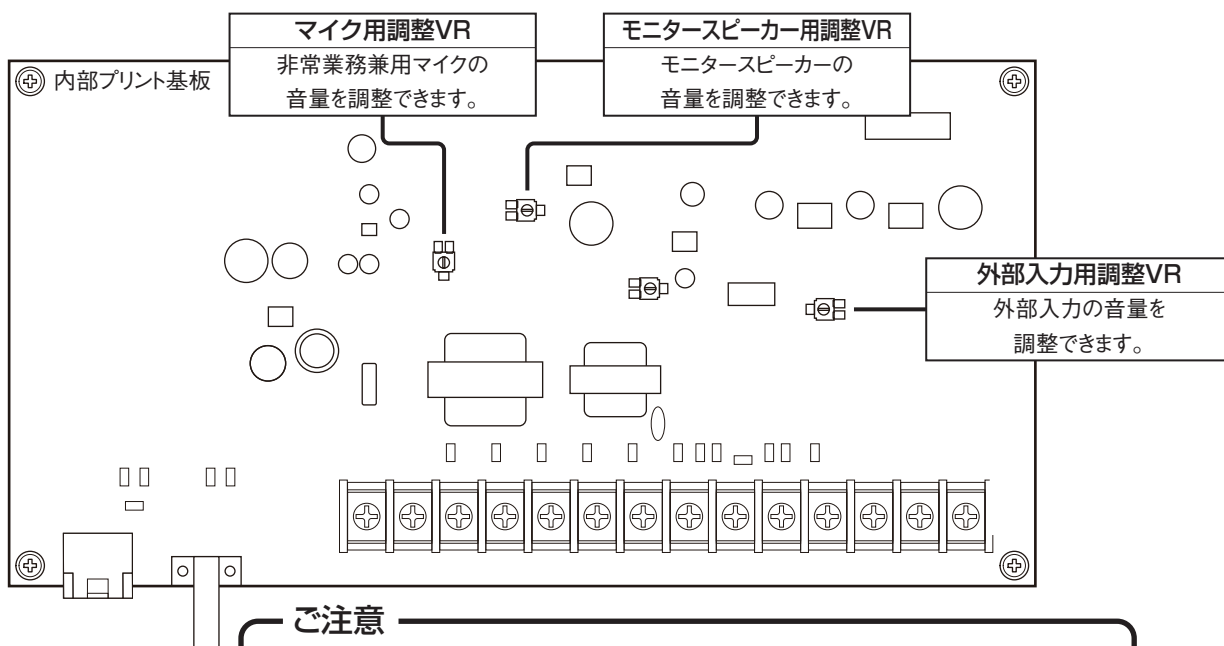
⇒スピーカーのワットの合計値はアンプの出力(ワット)合計値以下でなければなりません。

- ②スピーカーアッテネーターが正しく選定、接続されていますか…

⇒使用スピーカーに適合したアッテネーターが必要です。誤接続されると業務放送も影響を受けます。

- ③アンプの出力が定格出ているか…

⇒特に既設の電力増幅器を使うような場合、電力増幅器の入力感度調整が不適切ですと定格(AC100V)が出力しないことがあります。入力を大きくしすぎると他の正常な電力増幅器にとって過入力となります。



ご注意

- ・上記以外の調整VRは、絶対に触らないでください。
- ・非常業務兼用マイクの音量調整は、非常放送に影響しますので、販売店か工務店または保守契約店にご相談ください。

設置時の点検

重要

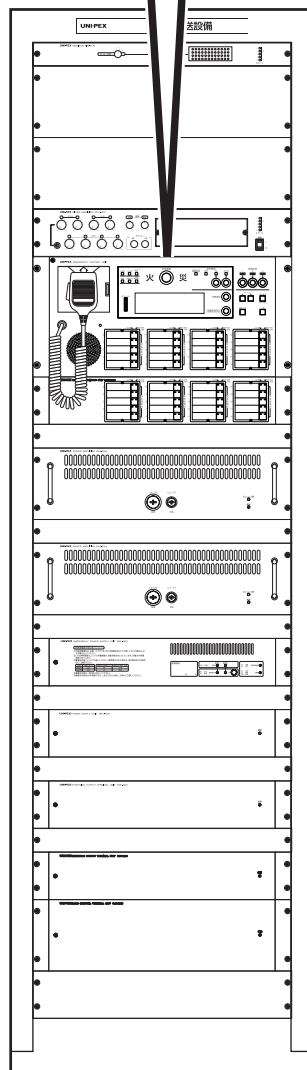
書込作業まで完了したら、通常運用に入る前に次ページ以降に記載されている手順で、非常および業務放送が設定通りに放送されることを確認してください。点検作業を開始する前に以下の内容を確認してください。

1. スピーカの配線は終わりましたか？
2. リモコンマイクなど他の機器の接続は終わりましたか？
3. AC電源は接続しましたか？ 分電盤のスイッチは「入」になっていますか？
4. 制御電源ユニットのブレーカーは「ON」になっていますか？
5. 蓄電池のコネクタは接続されていますか？
6. 非常電源ユニットの蓄電池異常解除スイッチを押して、異常解除をしましたか？
(充電が不十分な時は、蓄電池点検表示灯が赤く点灯します)

停電時の確認

非常放送時、AC電源を切り、蓄電池動作に切り換わることを確認してください。

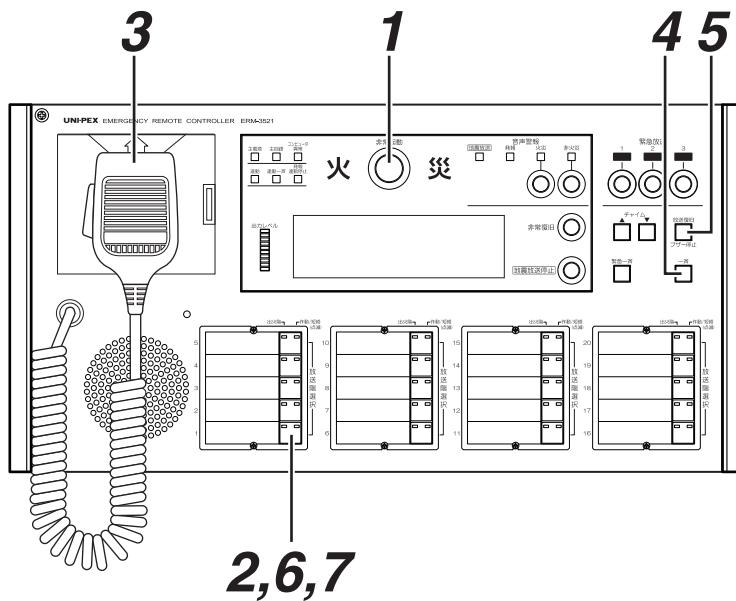
- 運用を開始する前に正しく動作するか点検してください。
- 定期的に保守点検をおこなってください。
(28～29ページの保守点検のしかたをお読みください。)



設置時の点検

■動作点検(非常放送)

●各設定状態における動作は、取扱説明書または、操作説明書をご覧ください。



3 マイクをはずし、アナウンスします。
マイクスイッチを押すと、音声警報放送が止まり、アナウンスが**2**で押された階に流れますか？

4 一斉放送スイッチを押しアナウンスします。
すべての作動表示灯が点灯し、全館にアナウンスが流れますか？

5 放送終了後は、放送復旧スイッチを押します。
作動表示灯が消え、スピーカー放送も切れますか？

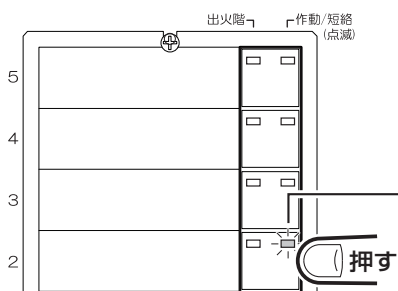
※第2タイマーにより一斉火災放送に移行した後は、放送復旧スイッチは無効となります。
非常復旧スイッチを押して**1**からやりなおしてください。

1 手動で非常起動スイッチを押します。
火災灯が点灯しますか？



●手動のとき押すと、火災灯が点灯します。

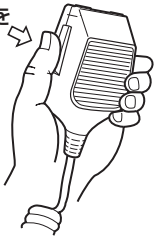
2 放送階選択スイッチを1ヶ所押します。
押された階の作動表示灯が点灯し、音声警報放送(発報放送または火災放送)が流れますか？



●放送階選択スイッチを押します。

●作動表示灯が緑色に点灯します。

スイッチを
押す



- スイッチを押しながら放送します。



押す

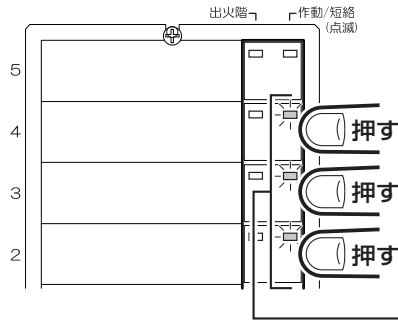
- 一斉放送スイッチを押すとすべての作動表示灯が緑色に点灯します。



押す

- 放送復旧スイッチを押すとすべての作動表示灯が消えます。

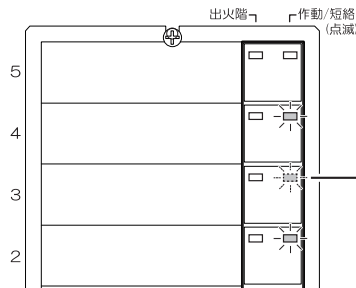
6 任意の放送階選択スイッチを2、3ヶ所押します。 作動表示灯が点灯しますか？



- 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。

- 作動表示灯が緑色に点灯します。

7 6で押した階のいずれか1つのスピーカ回線の出力保護用ヒューズをはずします。(火災または非火災放送を出力してください) はずした階の作動表示灯が点滅しますか？



- ヒューズをはずした場所の作動表示灯が緑色に点滅します。

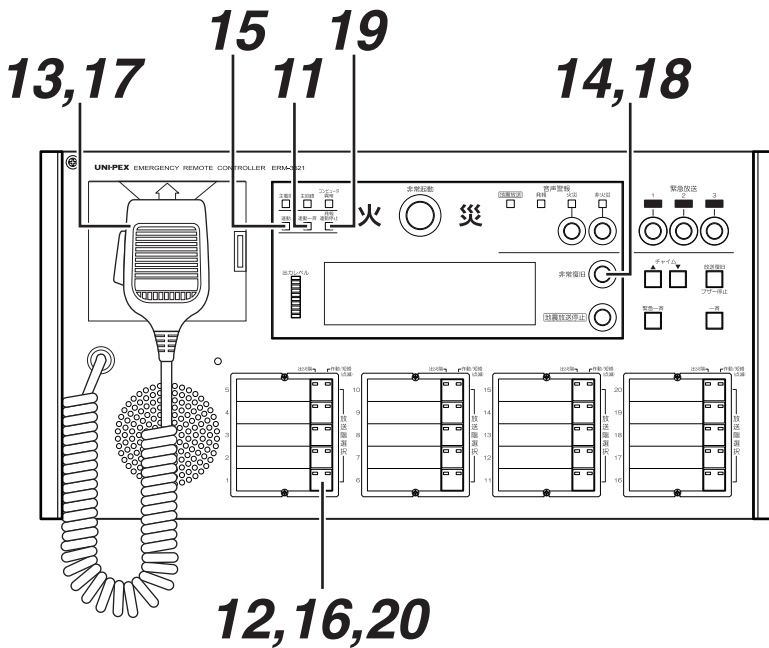
- 出力保護用ヒューズを元に戻します。

8 7の状態、分電盤のスイッチを「切」にします。 7の状態が継続していますか？ (確認後、すぐに分電盤のスイッチを「入」にしてください。)

9 非常復旧スイッチを押します。 火災灯、点灯している作動表示灯が消えますか？

10 コンピュータ制御スイッチ(マイクドア内)を「切」にしてから「入」にしてください。 短絡表示である点滅している作動表示灯が消えますか？

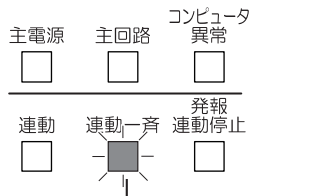
設置時の点検



13 マイクをはずし、アナウンスします。
マイクスイッチを押すと、音声警報放送が止まり、アナウンスがすべての階に流れますか？

14 自火報（自動火災感知器）の起動入力端子を復旧し非常復旧スイッチを押します。
火災灯、出火階表示灯、すべての作動表示灯が消えますか？

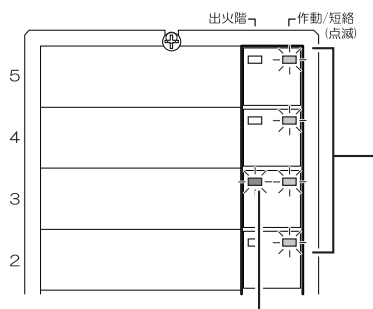
11 書込み設定で連動一斉の設定をしてください。
連動一斉表示灯が点灯しますか？



● 連動一斉としてご使用になるとき、赤色に点灯します。

12 自火報（自動火災感知器）の起動入力端子をショートします。

火災灯が点滅、全館に音声警報放送が流れ、出火階表示灯、すべての作動表示灯が点灯しますか？



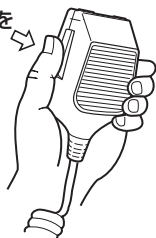
● 非常時、すべての作動表示灯が緑色に点灯します。

● 非常時、赤色に点灯し、出火階を表示します。

16 自火報（自動火災感知器）の起動入力端子をショートします。
火災灯が点滅し、音声警報放送が流れ、出火階表示灯、出火階指定で書き込まれた出火階および連動階などの作動表示が点灯しますか？

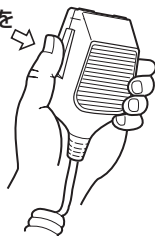
● 非常時、赤色に点灯し、出火階を表示します。

スイッチを
押す



17 マイクを外し、アナウンスします。
マイクスイッチを押すと、音声警報放送が止まり、
出火階、連動階などにアナウンスが流れますか？

スイッチを
押す



非常復旧



●非常放送を復旧させるとき、
このスイッチを押します。

18 自火報(自動火災感知器)の起動入力端子を復旧し
非常復旧スイッチを押します。
火災灯、出火階表示灯、すべての作動表示灯が消えますか？

非常復旧



●非常放送を復旧させるとき、
このスイッチを押します。

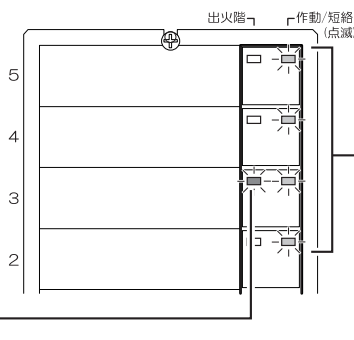
主電源	主回路	コンピュータ異常
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
連動	連動一斉	発報連動停止
<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

●連動としてご使用になるとき、
赤色に点灯します。

19 書込み設定で発報連動停止の設定をしてください。
連動表示灯が消灯し、発報連動停止表示灯が点灯しますか？

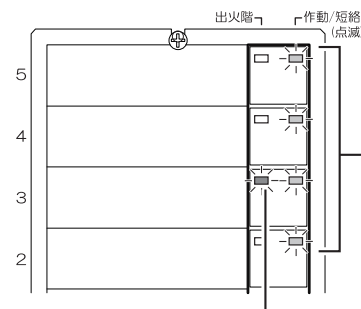
主電源	主回路	コンピュータ異常
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
連動	連動一斉	発報連動停止
<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>

●発報連動停止としてご使用になるとき、
赤色に点灯します。



●非常時、出火階および連動階などの
作動表示灯が点灯します。
(出火階指定で書き込まれたモード
で作動します。)

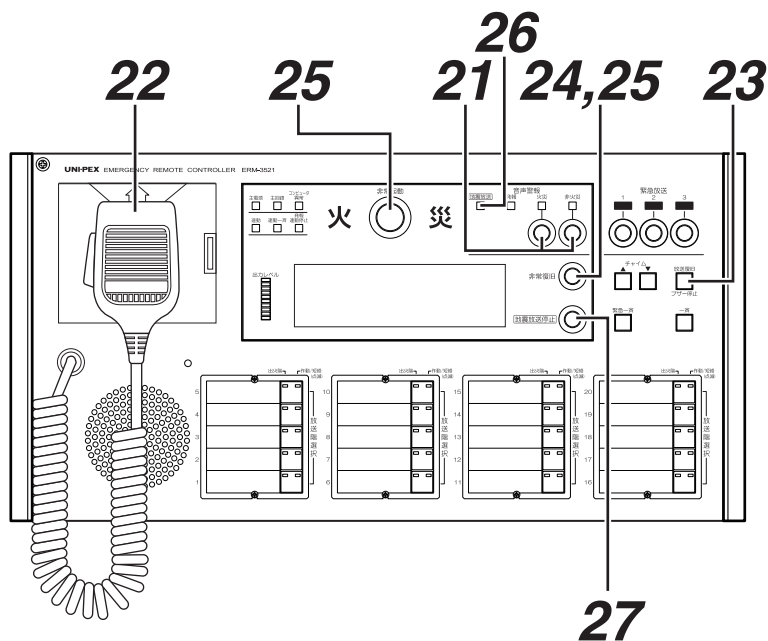
20 自火報(自動火災感知器)の起動入力端子をショート
します。火災灯が点滅し、火災音信号「ピー、ピー、ピー」
が鳴り、出火階表示灯、出火階指定で書き込まれた
出火階および連動階などの作動表示灯が点灯しますか？



●非常時、出火階および連動階などの
作動表示灯が緑色に点灯します。
(出火階指定で書き込まれたモードで
作動します。)

●非常時、赤色に点灯し、出火階を表示
します。

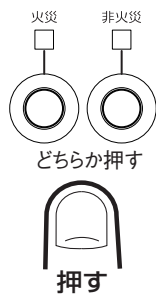
設置時の点検



22 マイクをはずし、アナウンスします。
マイクスイッチを押すと、音声警報放送が止まり、出火階、連動階などにアナウンスが流れますか？

23 放送終了後は放送復旧スイッチを押します。
作動表示灯が消え、音声警報音が止まりますか？

21 火災放送スイッチまたは非火災放送スイッチを押します。
自動的に出火階、連動階などに火災放送または非火災放送が流れますか？(火災放送は次の操作まで、非火災放送は2回、繰り返し流れます。)



●火災音信号(ピー、ピー、ピー)が消え、火災放送または非火災放送が流れます。

火災放送

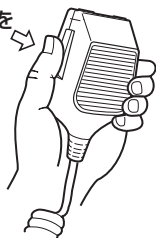
ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)
「火事です!火事です!○○で火災が発生しました。落ち着いて避難してください。」
ビュー ビュー ビュー (第2シグナル音)

非火災放送

ピンポン ピンポン ピンポン (第1シグナル音)
「先ほどの火災感知器の作動は、確認の結果、異常がありませんでした。ご安心ください。」

24 自火報(自動火災感知器)の起動入力端子を復旧させ、非常復旧スイッチを押します。
火災灯、すべての作動表示灯、出火階表示灯が消えますか？

スイッチを
押す



放送復旧



押す

- 放送復旧スイッチを押すと作動表示灯が消えます。

非常復旧



押す

- 非常放送を復旧させるとき、このスイッチを押します。

25 非常起動スイッチを押し、任意の放送階選択スイッチを押すと発報放送を放送します。

第1タイマー設定時間経過後、火災放送が放送されますか？

第2タイマー設定時間経過後、一斉火災放送が放送されますか？



確認後は非常放送復旧スイッチを押して、音声警報を止めてください。



26 基本制御端子盤の緊急地震放送入力端子をショートします。地震放送表示灯が点滅し、緊急地震放送が放送されますか？



緊急地震放送

ピロンポローン ピロンポローン (NHKチャイム音)
「地震です。落ち着いて身を守ってください。」

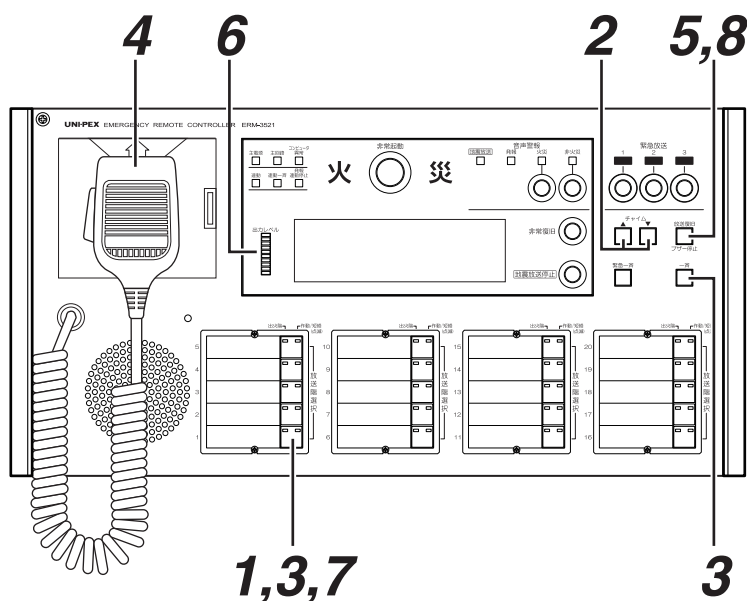
27 緊急地震放送を放送中に、地震放送停止スイッチを押してください。

地震放送表示灯が消灯し、緊急地震放送が終了しますか？



設置時の点検

■動作点検(業務放送)



1 任意の放送階選択スイッチを押します。
押された階の作動表示灯が点灯しますか？

- 放送したい階の放送階選択スイッチを押します。
- 作動表示灯が緑色に点灯します。

2 チャイムスイッチを押します。
1で押した階にチャイムが鳴りますか？

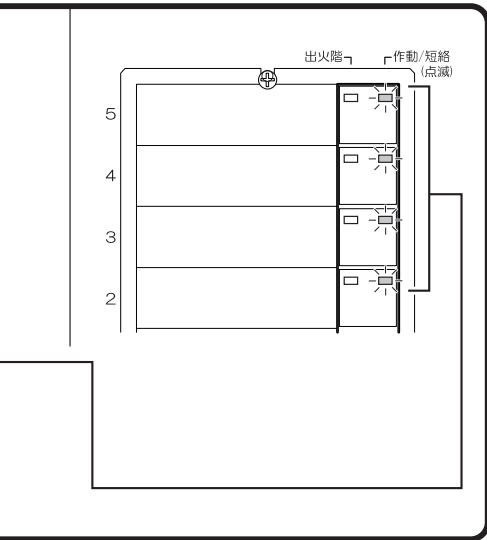
- 放送したい場所の放送階選択スイッチを押した後に、チャイムスイッチを押します。

3 一斉放送スイッチを押します。
すべての作動表示灯が点灯しますか？

- 一斉放送スイッチを押すとすべての作動表示灯が緑色に点灯します。

4 マイクをはずし、アナウンスします。
マイクスイッチを押すと、アナウンスが全館に流れますか？

5 放送終了後は、放送復旧スイッチを押します。
作動表示灯が消え、スピーカー放送も切れますか？



6 書き込み設定で、時報チャイム、緊急放送、緊急制御について出力レベルを設定します。

出力レベル

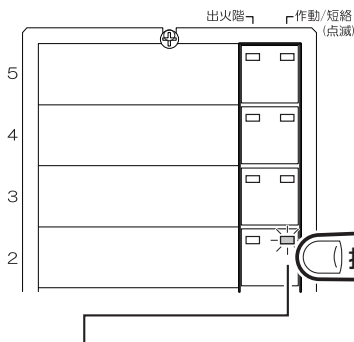


- 出力レベル表示灯により、各々の音量を決めてください。

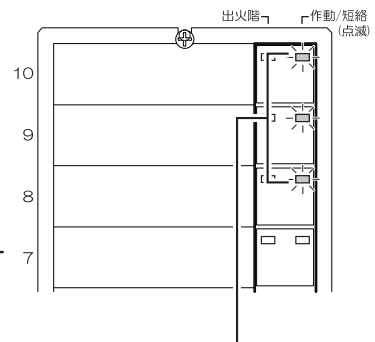
スイッチを押す

- スイッチを押しながら放送します。

7 書き込み設定したブロックスイッチを押し、アナウンスします。ブロックスイッチおよびブロックスイッチに対応した放送階の作動表示灯が点灯し、アナウンス放送が流れますか？



- ブロックスイッチの作動表示灯が緑色に点灯します。



- ブロックスイッチに対応した放送階の作動表示灯が緑色に点灯します。

放送復旧
押す

- 放送復旧スイッチを押すと、作動表示灯が消えます。

8 放送終了後は放送復旧スイッチを押します。作動表示灯が消えますか？



- 放送復旧スイッチを押すと作動表示灯が消えます。

保守点検のしかた(保守点検者の方へ)

ご注意

非常放送設備の保守は、消防設備士(第4類甲、乙、第7類乙)または、第2種消防設備点検資格者でなければおこなえませんのでご注意ください。

■点検について

- 本機にはセルフチェック機能があり、コンピューターが非常業務リモコン通信、スピーカー回線(短絡)、マイク、ローカルカット、システムを常時点検しています。
- 蓄電池の自動点検は、24時間おきに点検をおこないます。
- コンピューターが異常を発見したときは、各異常についての表示と同時に警告音(ブザー：ピー)が鳴ります。異常箇所を確認してから、販売店、保守契約店に連絡してください。(異常は本体が非常業務リモコンかを確認してください)

※手動で蓄電池の点検をおこないますと、コンピューターは、それから24時間おきに自動的に点検をおこないます。



○警告音を止めるには、操作パネルの放送復旧(ブザー停止)スイッチを押してください。

- 一時的に止めることができます。異常表示部の表示灯は点灯したままです。(コンピューター異常表示灯点灯時を除く)

■異常表示について

コンピュータ異常

・コンピュータ異常表示灯が点灯(赤)します。

マイクまたはユニット異常

・LCD画面に表示されます。

短絡表示

・スピーカ回線が短絡すると、短絡した場所の作動表示灯が点滅(緑)します。

・LCD画面に表示されます。

蓄電池異常

・非常電源ユニット(RDE-3220)の蓄電池点検表示灯(赤)が点灯します。(次頁参照)

・LCD画面に表示されます。

コンピュータ異常、蓄電池異常、マイク異常、ユニット異常、短絡異常になったとき、復旧後は、コンピュータ制御スイッチを「切」にしてから(リセット)、「入」にしてください。

■総合点検について

○外部に音を出さずに、本機の総合点検ができます。

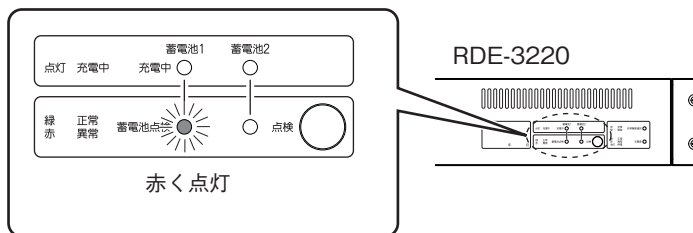
- ①マイクドアを開け、書き込みモードにて点検の設定をします。
- ②緊急地震放送、非常放送および業務放送をおこないます。このとき、外部には音が出ませんので、それぞれの表示灯および出力レベル表示灯が働いていることを確認します。
- ③全ての動作を確認したら、点検モードを終了してください。

■電源の点検について(自動点検)

- コンピューターが24時間おきに点検をおこないます。

①コンピューターが蓄電池の異常を発見したとき

- ・非常電源ユニット(RDE-3220)の蓄電池点検表示灯(赤)が点灯およびLCD画面に異常表示します。
- ・蓄電池の接続に異常がないか、確認してください。

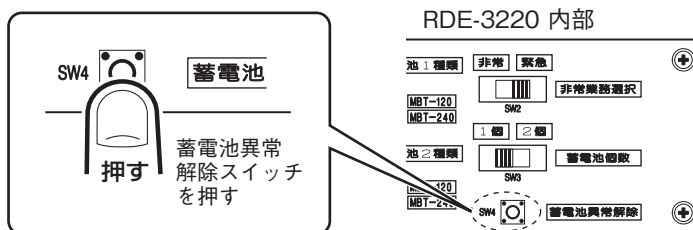


②新しい蓄電池と交換してください

- ・蓄電池の交換手順は、16頁「蓄電池の交換手順」を参照してください。

③処置

- ・蓄電池点検表示の解除は、非常電源ユニット(RDE-3220)内部の蓄電池異常解除スイッチを押してください。
- ・LCD画面の異常表示を復帰するには、非常業務操作ユニット(REE-3521)マイク扉内にあるコンピューター制御スイッチを一度「切」にし、再度「入」にしてください。



異常表示一覧

●異常が発生した時はブザーが鳴動し、画面にエラー内容が表示されます。

エラー内容を確認し、工事説明書をもとに状態を確認してください。複数台ある場合は上下キーを操作し確認してください。

※放送復旧スイッチ(ブザー停止兼用)を押すと、ブザーの鳴動が停止します。

※下記の表にある処置をおこないましたら、コンピューター制御スイッチを一度「切」にし、再度「入」にして復帰させてください。

※復帰させてもエラーが表示される場合は、販売店または最寄りの営業所へご相談ください。

画面表示	異常内容	点検項目	処置
蓄電池異常 異常表示の非常電源ユニットを確認してください	蓄電池異常	蓄電池が充電されていません。	新しい蓄電池と交換してください。
システム異常 増設スイッチユニットNo.02が異常、確認してください ↑:前 ↓:次	システム異常 増設スイッチユニット	増設スイッチユニットのアドレスを確認してください。	正しいアドレスに設定してください。(ラック形非常用放送設備の工事説明書(本編)14頁参照)
		電源の通電を確認してください。	電源ケーブルの交換、手直しをしてください。
		増設スイッチユニットが故障しています。	販売店または最寄りの営業所に連絡してください。
システム異常 増設出力端子盤ユニットNo.01が異常、確認してください ↑:前 ↓:次	システム異常 増設出力端子盤ユニット	増設出力端子盤ユニットのアドレスを確認してください。	正しいアドレスに設定してください。(ラック形非常用放送設備の工事説明書(本編)22頁参照)
		電源の通電を確認してください。	販売店または最寄りの営業所に連絡してください。
システム異常 マトリクスユニットNo.01が異常、確認してください ↑:前 ↓:次	システム異常 入力マトリクスユニット	入力マトリクスユニットのアドレスを確認してください。	正しいアドレスに設定してください。(入力マトリクスユニットの取扱説明書参照)
		電源の通電を確認してください。	電源ケーブルの交換、手直しをしてください。
		入力マトリクスユニットが故障しています。	販売店または最寄りの営業所に連絡してください。
システム異常 基本制御ユニットが異常、確認してください ↑:前 ↓:次	システム異常 基本制御端子盤ユニット	電源の通電を確認してください。	電源ケーブルの交換、手直しをしてください。
		基本制御端子盤ユニットが故障しています。	販売店または最寄りの営業所に連絡してください。
システム異常 増設制御ユニットNo.01が異常、確認してください ↑:前 ↓:次	システム異常 増設制御端子盤ユニット	増設制御端子盤ユニットのアドレスを確認してください。	正しいアドレスに設定してください。(ラック形非常用放送設備の工事説明書(本編)29頁参照)
		電源の通電を確認してください。	電源ケーブルの交換、手直しをしてください。
		増設制御端子盤ユニットが故障しています。	販売店または最寄りの営業所に連絡してください。
SP回線異常 端子No.42が短絡、確認してください ↑:前 ↓:次	SP回線異常	増設出力端子盤ユニットのSP保護ヒューズを確認してください。	原因を取り除いてヒューズを交換してください。
0-カカ外異常 0-カカ外回線を確認してください	カトリレー電源異常	保護ヒューズが断線しています。	原因を取り除いてヒューズを交換してください。
本体マイク異常 本体のマイクを確認してください	本体マイク異常	本体のマイクが故障しています。	販売店または最寄りの営業所に連絡してください。
非常RMマイク異常 非常RM No.01のマイクに異常発生、確認してください ↑:前 ↓:次	非常業務リモコンマイク異常	非常業務リモコンのマイクが故障しています。	販売店または最寄りの営業所に連絡してください。
非常RM通信異常 非常RM No.02に異常発生、確認してください ↑:前 ↓:次	非常業務リモコン通信異常	非常業務リモコンと本体を接続する接続線に異常があります。	接続線の交換、手直しをしてください。
		非常業務リモコンが故障しています。	販売店または最寄りの営業所に連絡してください。

サポートのご案内

■ 修理・お取扱い・お手入れについてのご相談・ご依頼は、お買い上げの販売店にお申し付けください。

販売店に修理を依頼する場合は、下記の項目をお確かめください。

①品名 ②品番 ③お買い上げ日 ④故障の状況（できるだけ具体的にお願いします）

■ 販売店がご不明な場合は、最寄りの弊社営業所にお問い合わせください。

営業所情報はホームページ
もしくは2次元コードにアクセス
してください。
<http://www.unipex.co.jp>



■ その他ご不明な点は、お客様ご相談センターへご相談ください。

UNI-PEX 0120-56-5245 通話料無料

お客様ご相談センター 受付時間／9:00～17:00（土・日・祝日除く）
携帯電話からのご利用は、
072-855-3334（通話料がかかります）

【お客様の個人情報のお取り扱いについて】

お客様ご相談センターにおけるお客様の個人情報は、ご相談対応、修理およびその確認に使用いたします。個人情報は適切に管理し、正当な理由がある場合を除き、第三者に提供または開示いたしません。